

令和6年における 交通死亡事故の発生状況について (熊本県)

令和7年1月27日
熊本県警察本部
交通部交通企画課

(注) 令和6年の数値は暫定値である。

【概要】

〔推移〕

- ・ 死者数は55人で、前年比18人、48.6%増
- ・ 65歳以上の死者数は31人で、前年比5人増、全死者の半数以上（56.4%）を占める

〔特徴〕

○ 状態別

- ・ 状態別死者数は、「歩行中」が最多、次いで「自動車乗車中」が多い
- ・ 「歩行中」の死者数20人のうち、13人（65%）が「65歳以上の高齢者」

○ 時間帯別

過去5年間（令和元年から令和5年まで）の平均と比較すると、「16時から18時まで」の死者数が少なかった一方、「22時から24時まで」の死者数が多い

○ 事故類型別

事故類型別死者数は、「人対車両」が20人、「車両相互」が18人、「車両単独」が17人

《人対車両》

- ・ 「人対車両」の死者のうち、13人（65%）が「道路横断中」
- ・ 道路横断中の死者は、時間帯別で見ると「6時から8時まで」と「22時から24時まで」が多い

《車両相互》

- ・ 「車両相互」の死者は、「出会い頭」と「正面衝突」が半数以上（約61%）を占め、特に昨年は「正面衝突」が大きな割合を占める
- ・ 正面衝突死亡事故の第1当事者の通行目的別では、「観光・娯楽」が半数を占める
- ・ 正面衝突死亡事故は、8月から10月にかけて全体の半数が発生

《車両単独》

- ・ 「路外逸脱-転落」が全体の約41%を占める
- ・ 路外逸脱（転落）死亡事故の死者の年齢別では、「65歳以上の高齢者」が全体の約86%を占める

「全国及び九州」における**死者数**【暫定値】

※人口は、令和5年10月1日現在

	死者数 (人)	前年比 (人)	増減率 (%)
全 国	2,663	-15	-0.6
福 岡	91	-12	-11.7
佐 賀	24	11	84.6
長 崎	26	-10	-27.8
熊 本	55	18	48.6
大 分	28	-4	-12.5
宮 崎	39	9	30.0
鹿 児 島	53	13	32.5
沖 縄	44	6	15.8

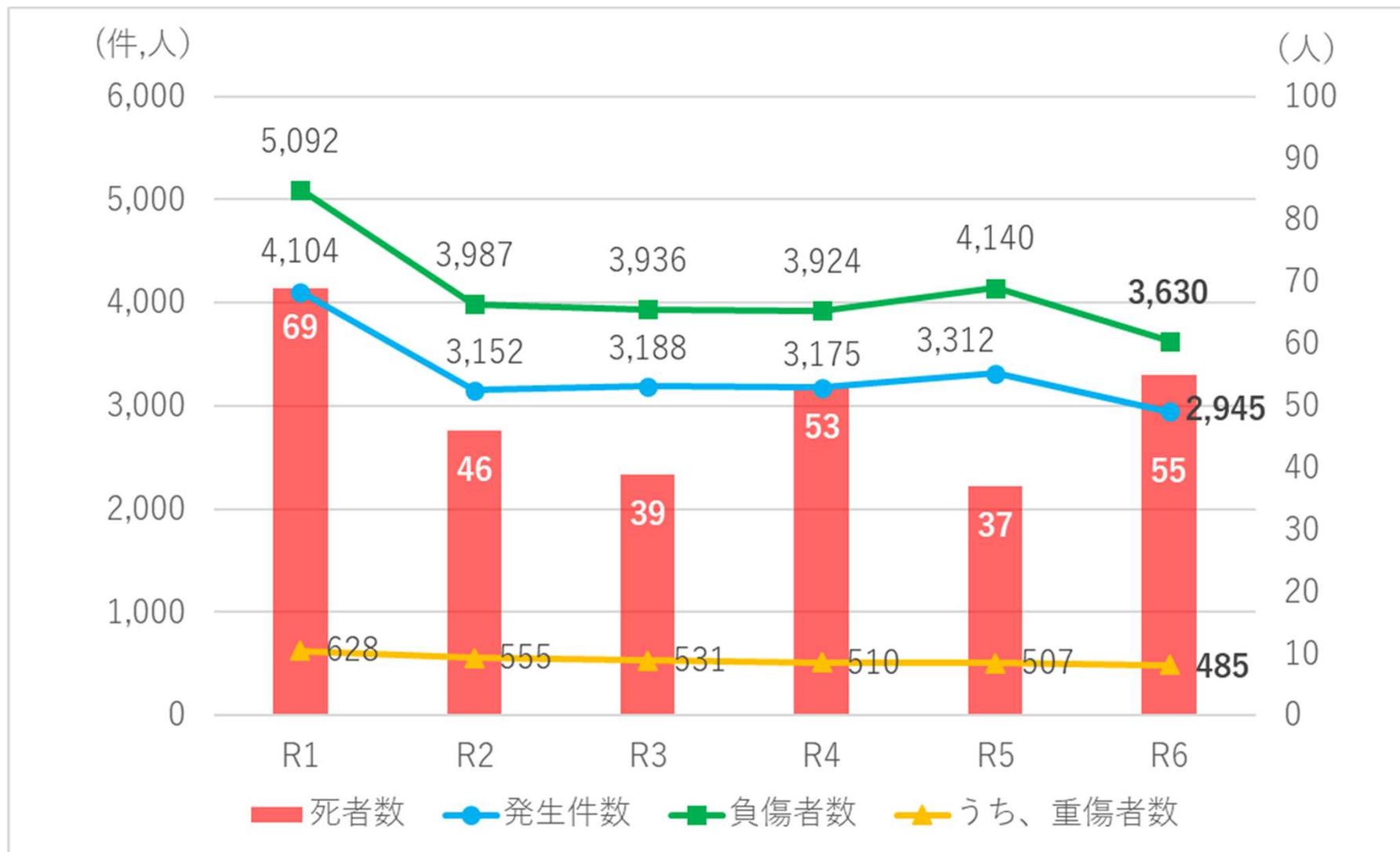
人口10万人あたり 死者数 (人)	
宮 崎	3.74
鹿 児 島	3.42
熊 本	3.22
佐 賀	3.02
沖 縄	3.00
大 分	2.55
全 国	2.14
長 崎	2.05
福 岡	1.78

「熊本県」における発生状況 【暫定値】

● 発生件数及び負傷者数は、昭和42年（1967年）以降で最少

	令和6年中	前年比	増減率 (%)	過去5年 (R1~R5) 平均値
発生件数 (件)	2,945	-367	-11.1	3,386.2
死者数 (人)	55	18	48.6	48.8
負傷者数 (人)	3,630	-510	-12.4	4,215.8
(うち、 重傷者数 (人))	485	-22	-4.3	546.2

年別推移

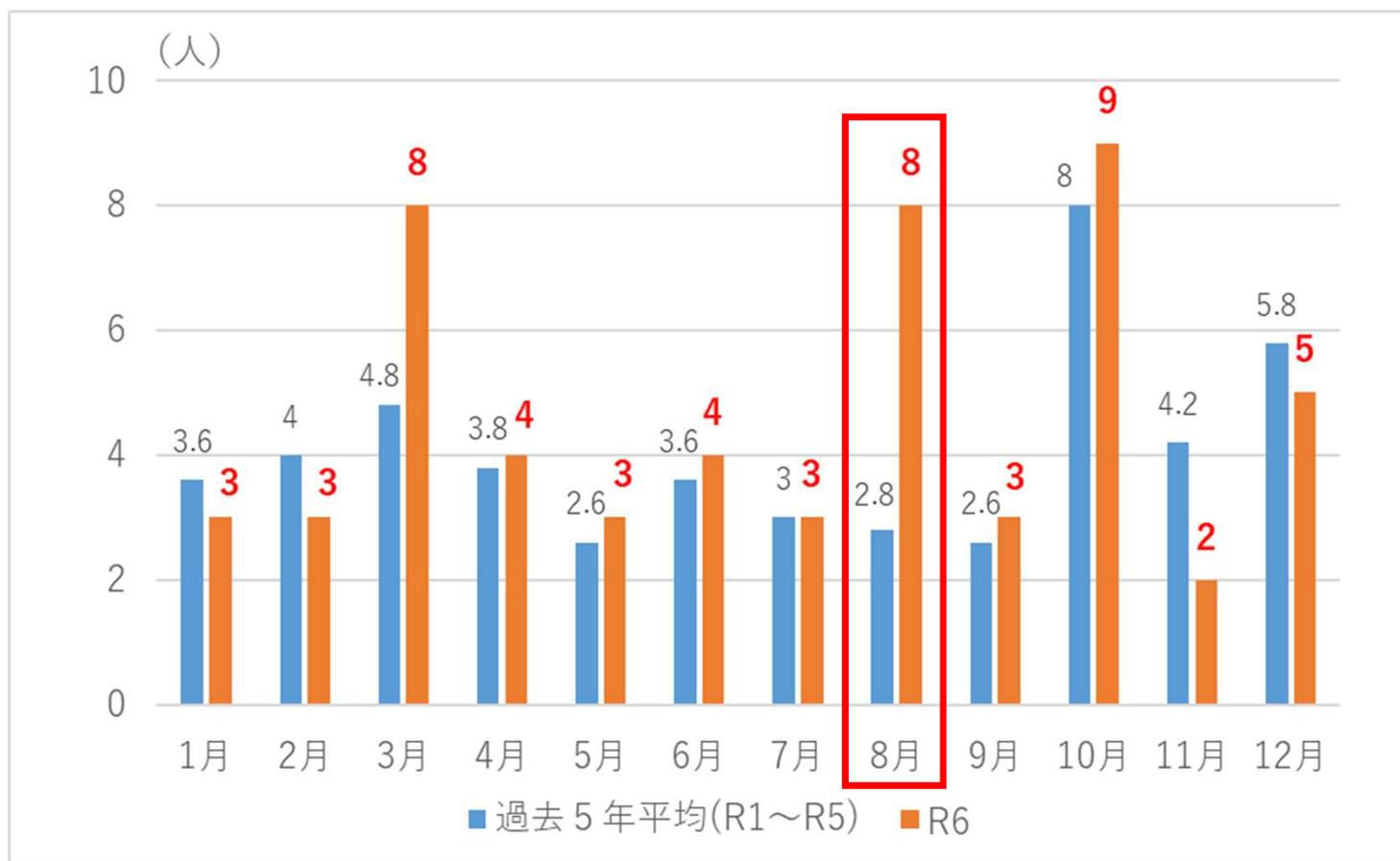


(注) 重傷者数とは、負傷者数のうち、1か月(30日)以上の治療を要する人のことをいう。

死亡事故の発生状況（特徴）

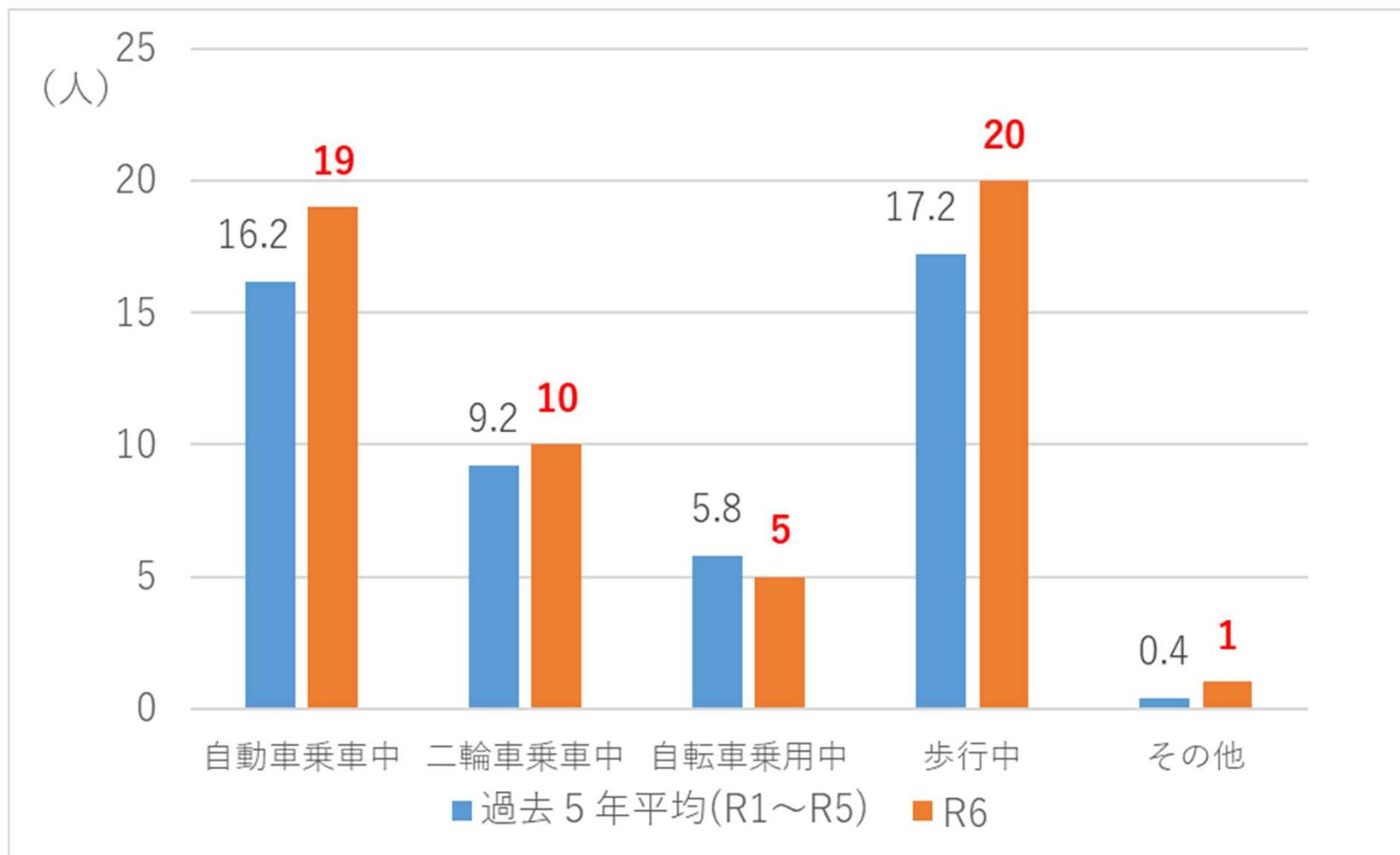
「月別」死者数

- 8月中の死者数が、過去5年間の平均との比較で約2.8倍多い



「状態別」死者数

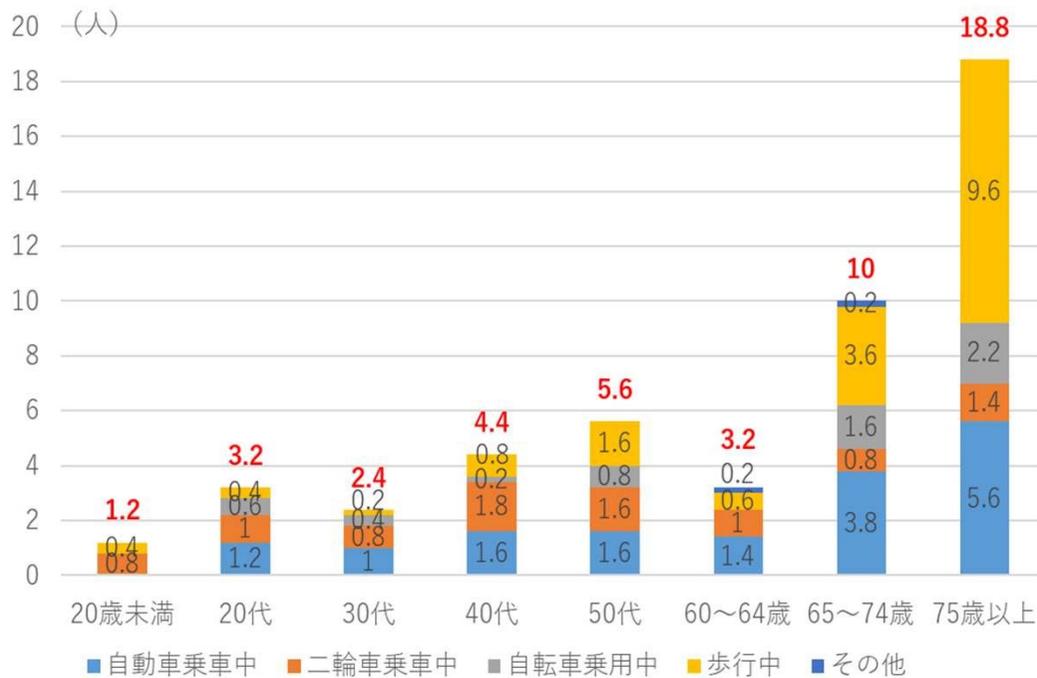
- 歩行中と自動車乗車中の死者数が、高い割合を占める



「年齢(代)別・状態別」死者数

- 20代、30代の死者数が、過去5年間の平均と比べ多い傾向
- 65歳以上の高齢者の死者数が、全死者の半数以上（約56%）を占める
- 歩行中の死者数20人のうち、13人が「65歳以上の高齢者」

過去5年平均(R1～R5)

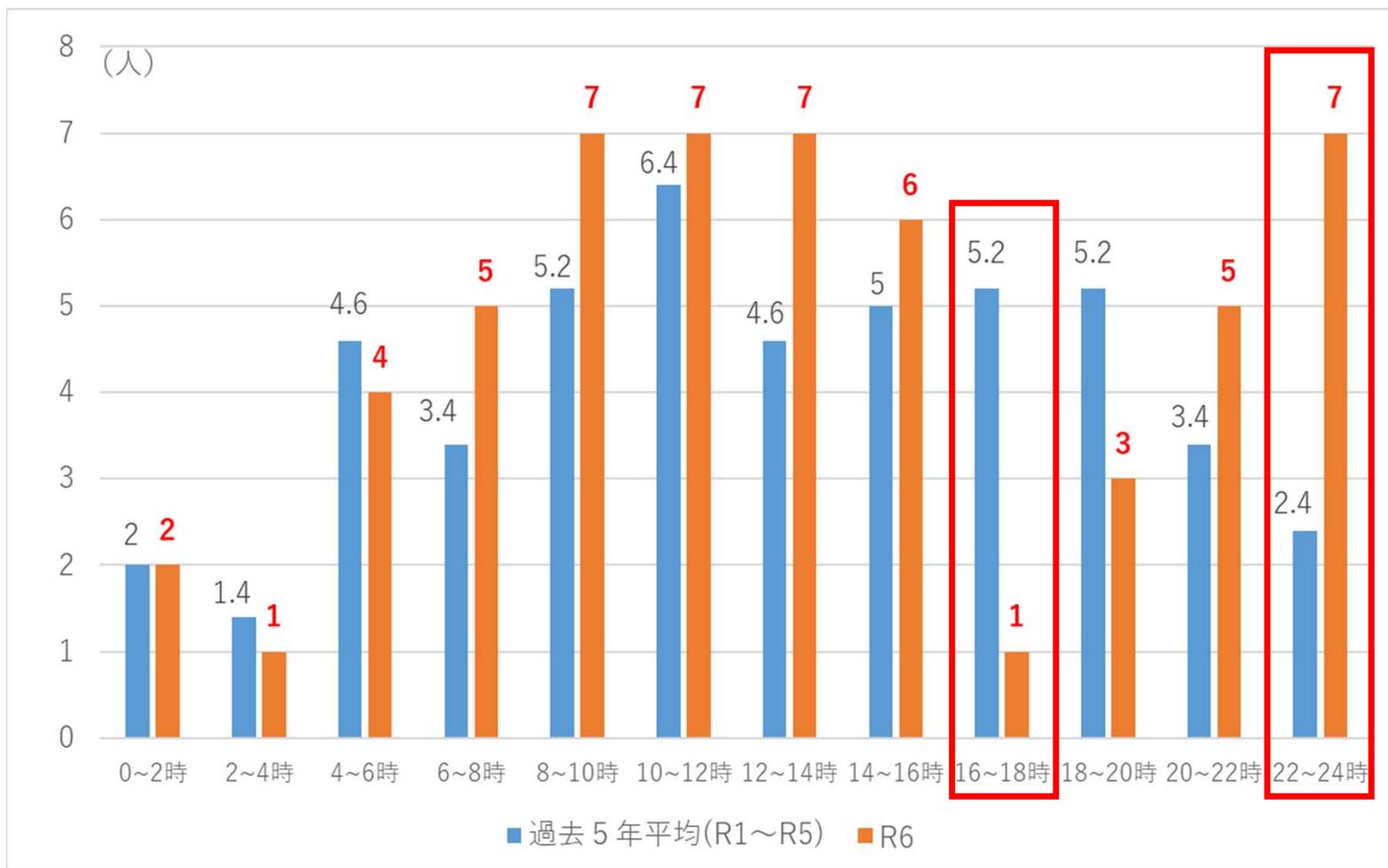


令和6年中

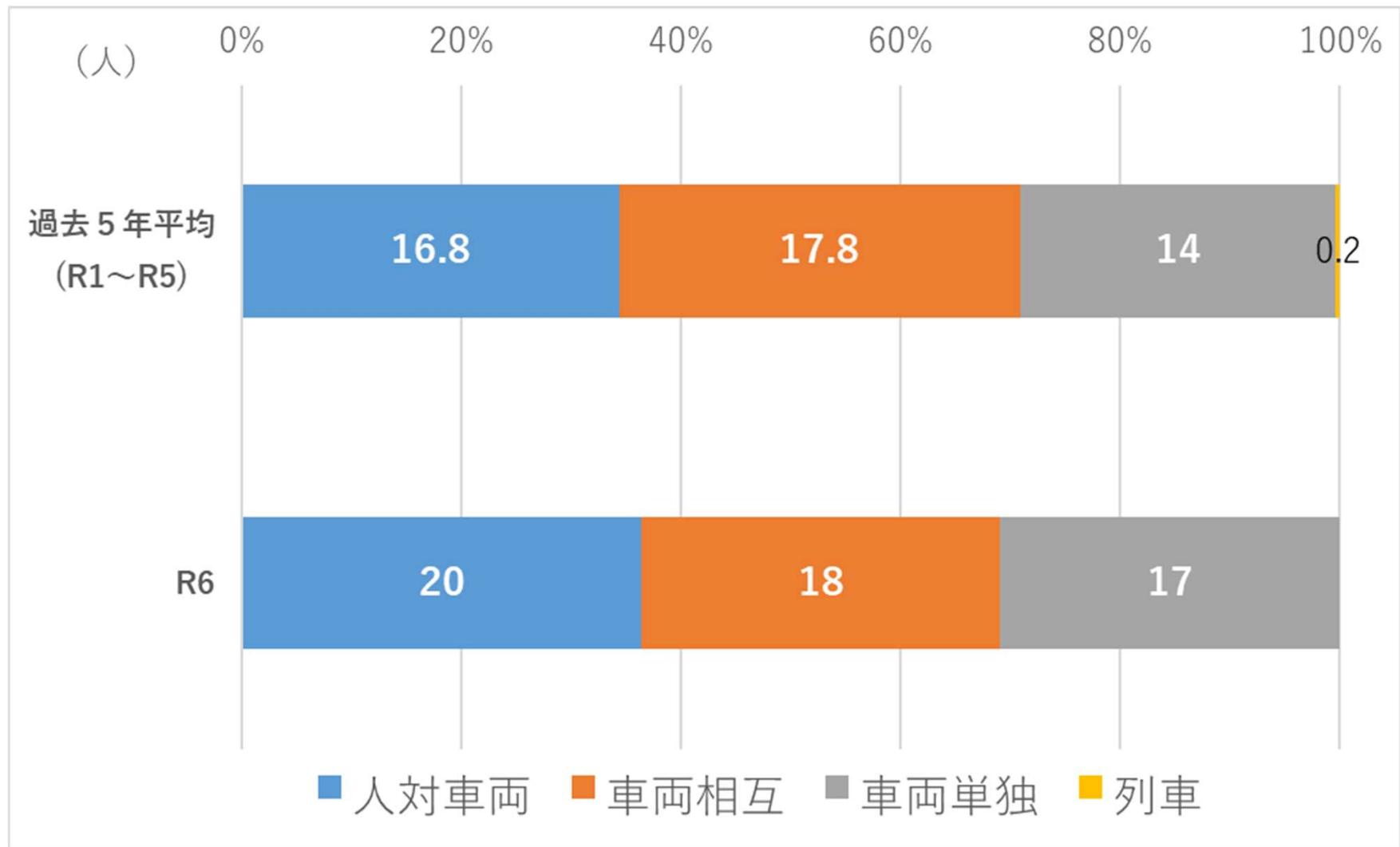


「時間帯別」死者数

- 過去5年間の平均と比較すると、「16時から18時まで」の死者数が少なかった一方、「22時から24時まで」の死者数が多い

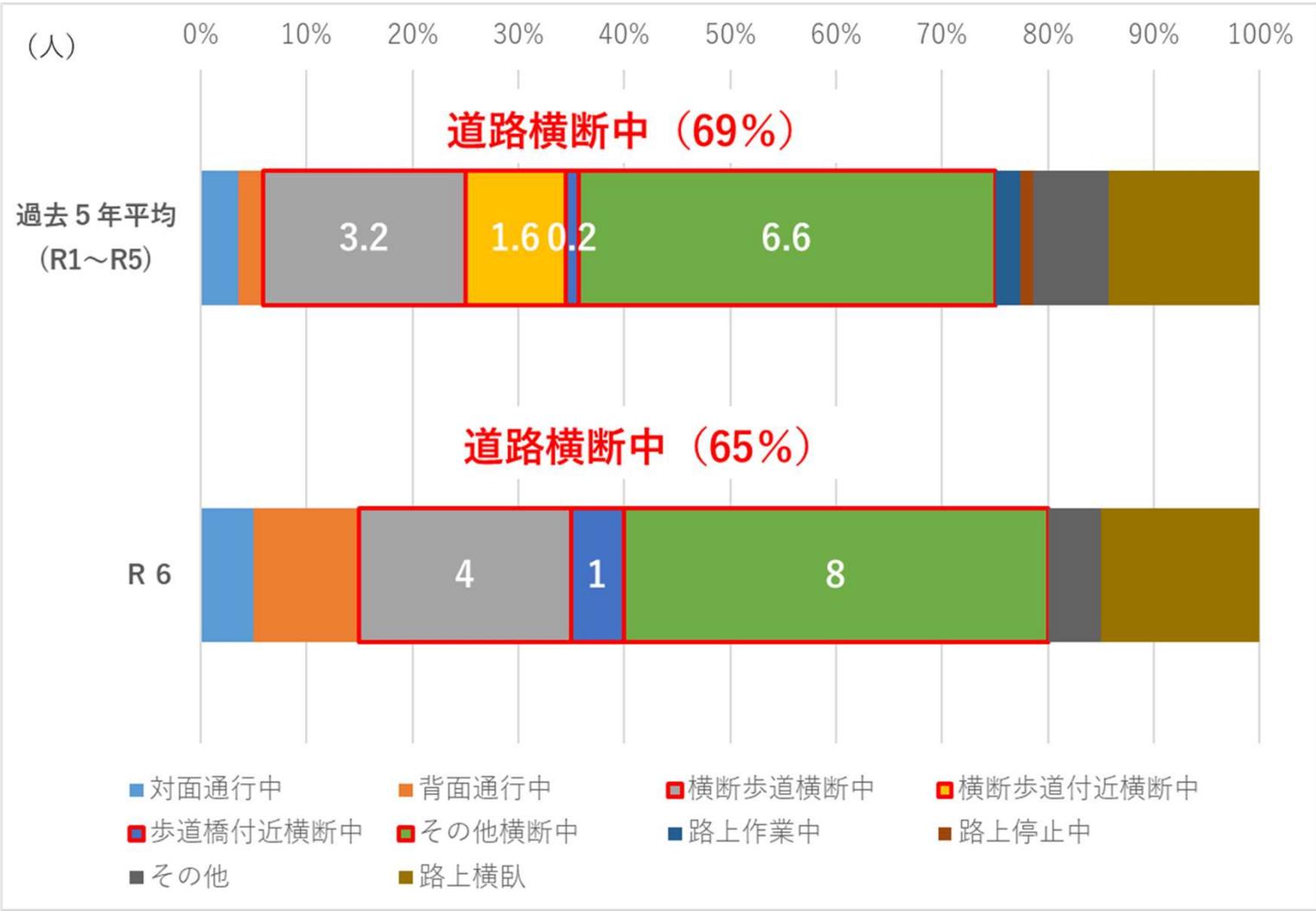


「事故類型別」死者数



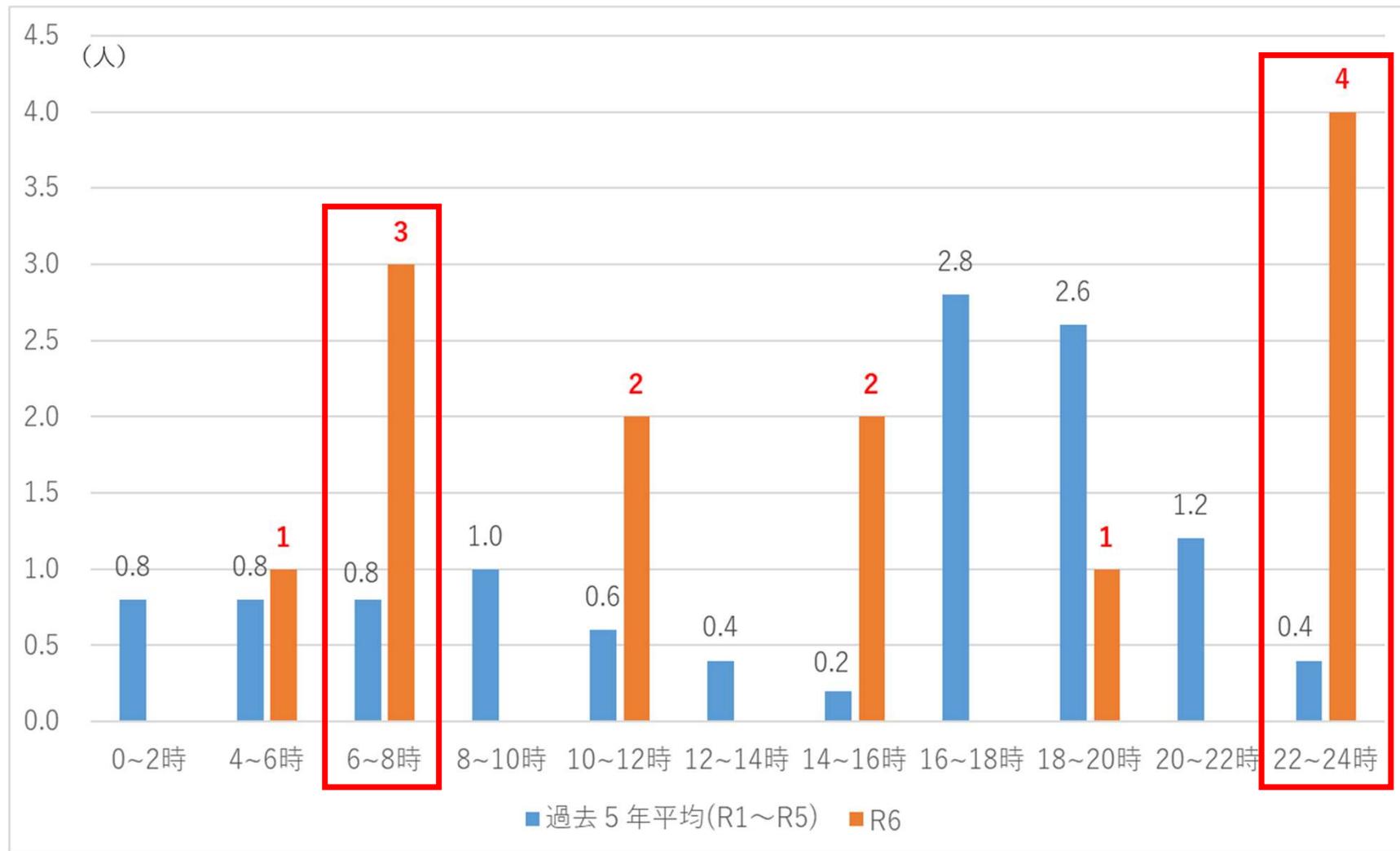
○ 「人対車両」内訳

● 歩行中の死者20人のうち、13人（65%）が「道路横断中」



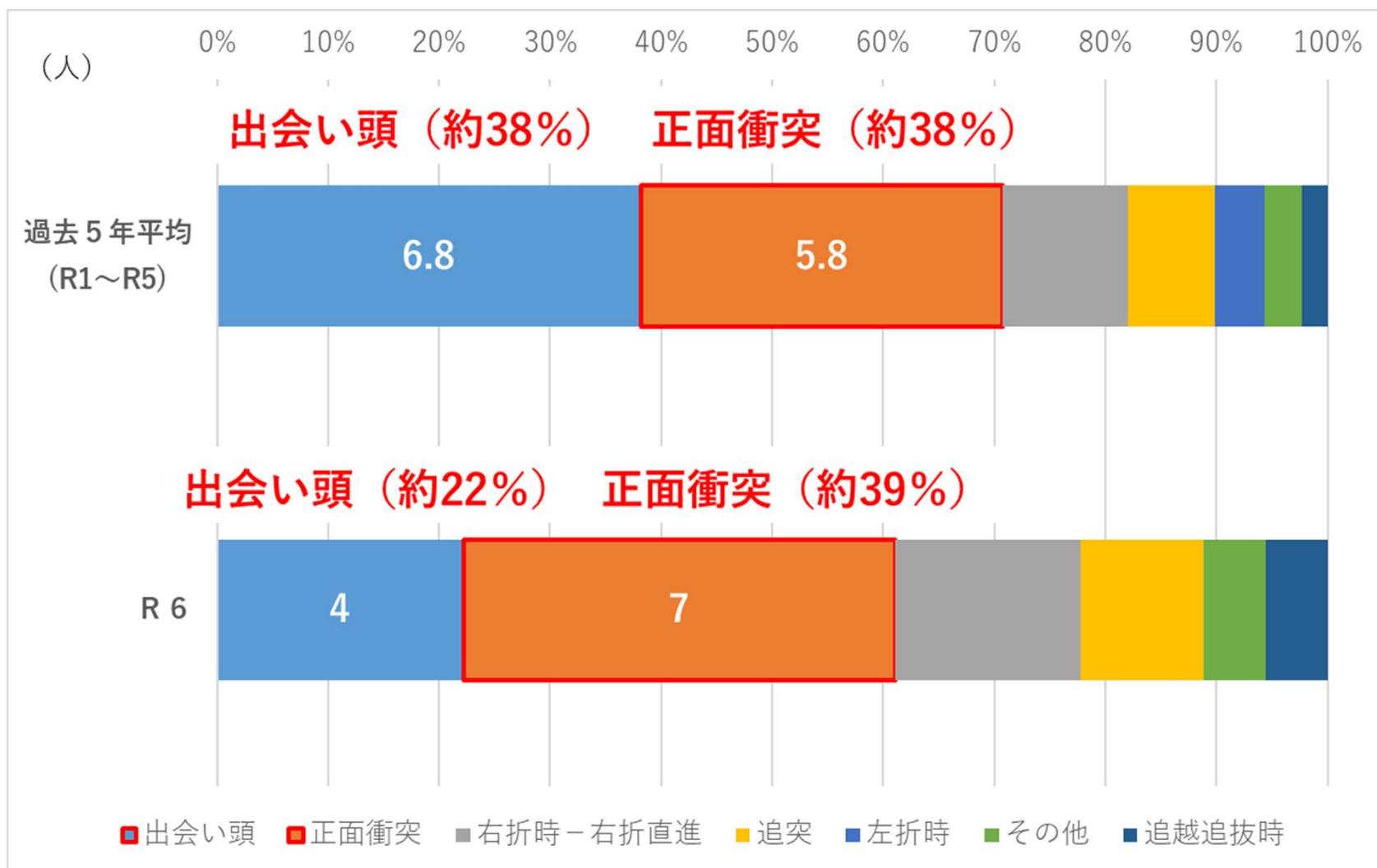
「道路横断中」発生時間帯別死者数分析

- 「6時から8時まで」と「22時から24時まで」の死者数が多い



○ 「車両相互」内訳

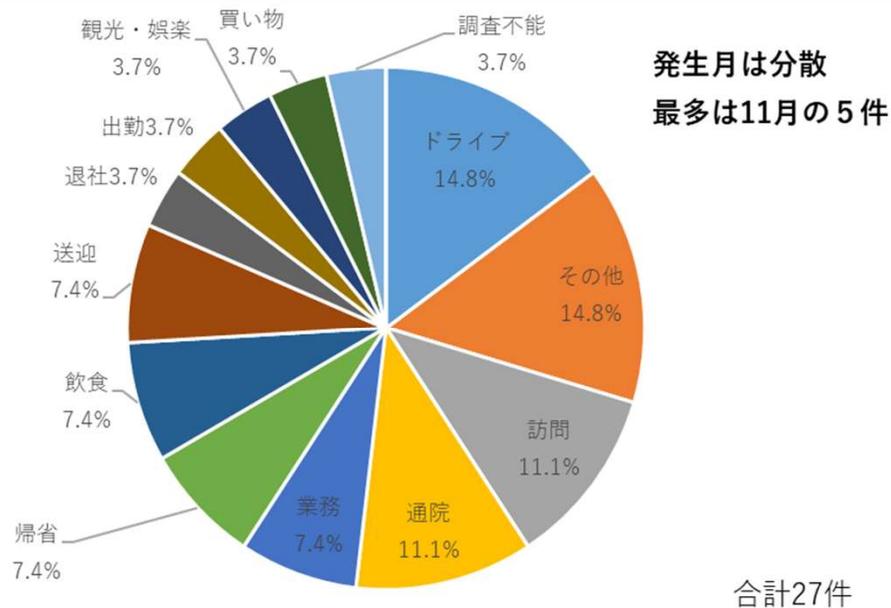
● 「出会い頭」と「正面衝突」が全体の約6割を占め、特に令和6年は「正面衝突」が大きな割合を占める



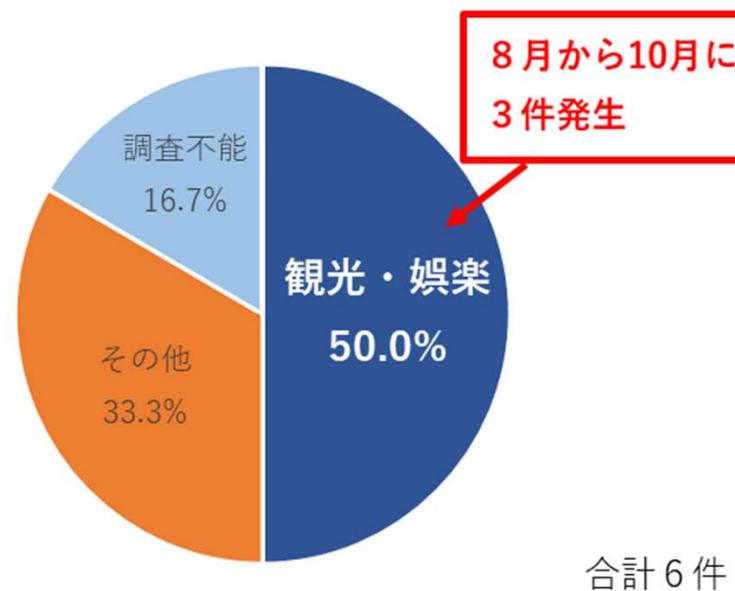
「正面衝突死亡事故」第1当事者通行目的別分析

- 令和6年の第1当事者の通行目的別では、「観光・娯楽」が半数を占める
- 令和6年の正面衝突死亡事故は、8月から10月にかけて全体の半数が発生

過去5年合計(R1~R5)

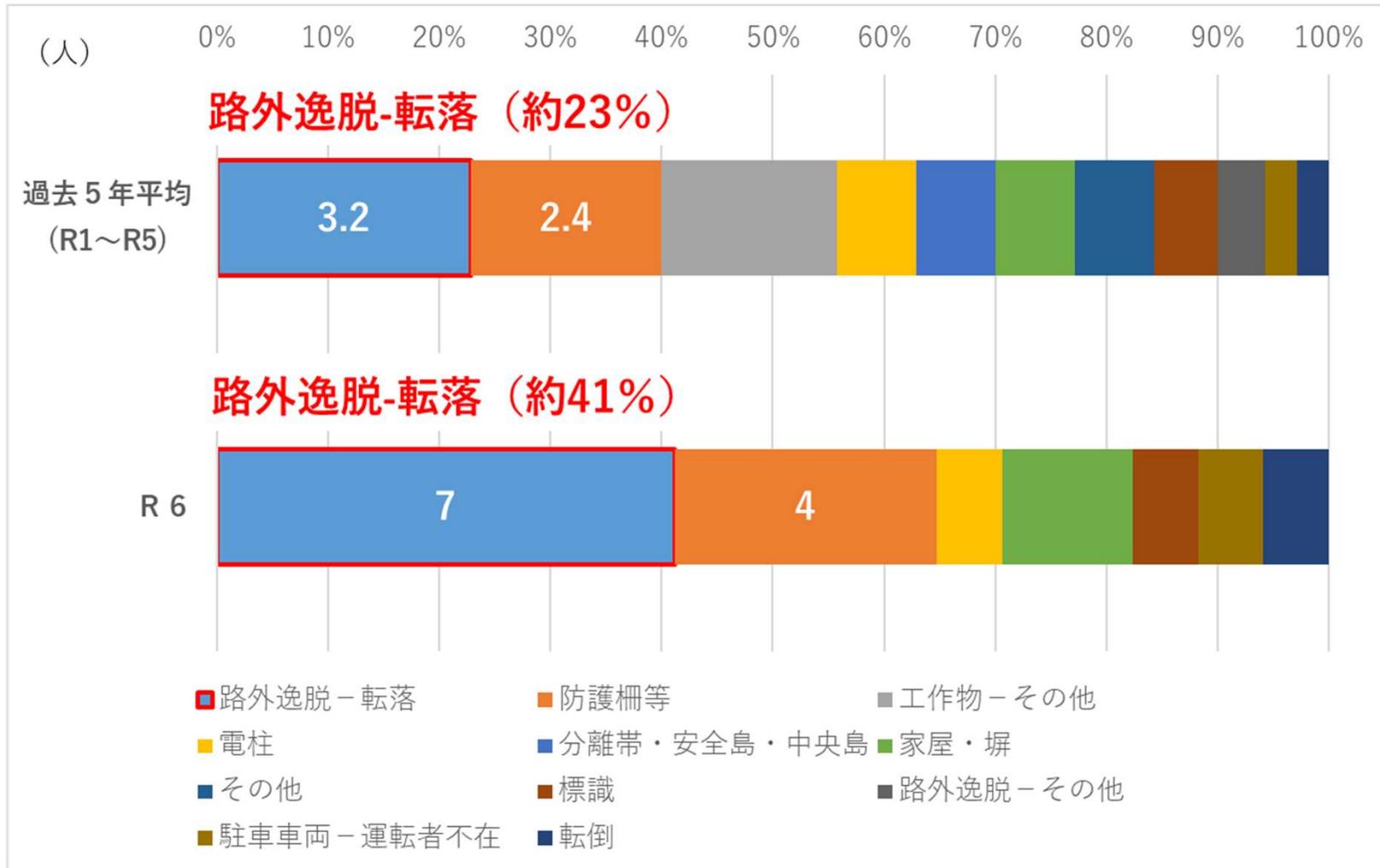


令和6年中



○ 「車両単独」内訳

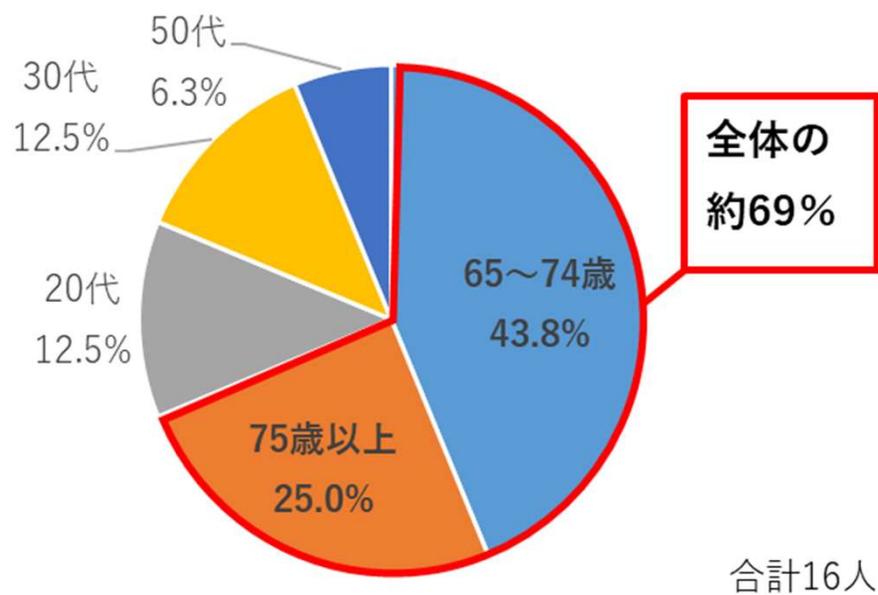
● 特に、令和6年は「路外逸脱-転落」が全体の約41%と大きな割合を占める



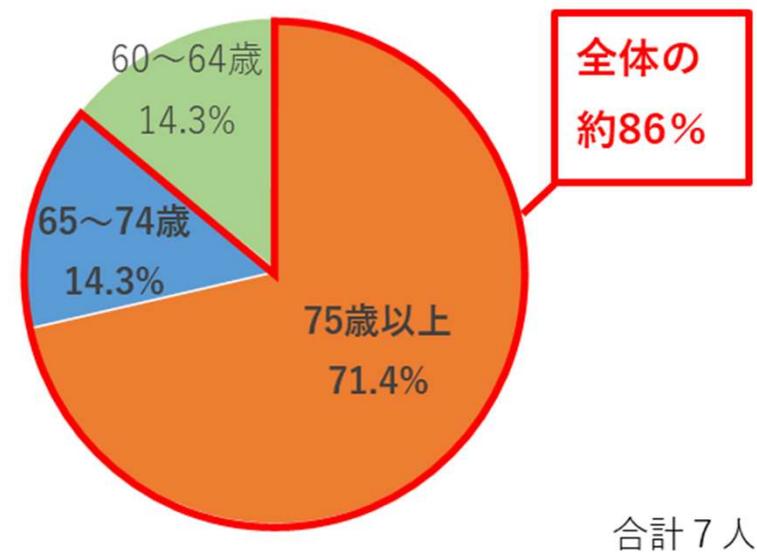
「路外逸脱(転落)死亡事故」 死者年齢(台)別分析

- 「65歳以上の高齢者」が全体に占める割合が過去5年間は約69%であるのに対し、令和6年は約86%で、特に「75歳以上の高齢者」が大きな割合を占める

過去5年合計(R1~R5)



令和6年中



「事故を起こさない、事故に遭わないために」～令和6年の死亡事故の特徴を踏まえて～

- 「人対車両」の事故で、歩行者は「**道路横断中**」に事故に遭うことが多い
- 「車両相互」の事故は、夏季のレジャー目的の「**正面衝突**」が多い
- 「車両単独」の事故は、「**路外逸脱（転落）**」が多い



【ドライバーの方へ】

- 前照灯の早め点灯、ハイビームへのこまめな切り替えを行いましょう
- 「横断歩道は歩行者優先」
特に、信号機のない横断歩道で歩行者が横断しているときや横断しようとしている場合は、必ず手前で一時停止をして、歩行者に道を譲ることを徹底するとともに、前方左右の安全確認を徹底しましょう
- 「眠気や疲れ」を感じる前のこまめな休憩や水分補給、十分な睡眠や体調管理を徹底しましょう

【歩行者の方へ】

- 道路の横断に際して、近くに横断歩道がある場合は、横断歩道を利用し、横断する前に今一度左右の安全確認を徹底しましょう
- 暗い時間帯は、反射材やライトなどを活用し、自分の存在を周囲にアピールしましょう
- 飲酒后、徒歩で移動する際は、段差でのつまづきや道路上での立ち止まり等に気をつけましょう

